

令和 6 年度 西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな創造力を持ち、思いやりのある心情、たくましい気力と体力、自主的精神に満ちた実践力のある児童を育成する。
 ・よく考え、学ぶ子供 ・思いやりのある子供 ・心身を鍛える子供

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるための課題意識を持ち、その解決を図るために、知識・技能を確実に身に付け、活用して、自分の考えを持ち、他者の意見と比べながらよりよく考える、コミュニケーション力のある児童の育成をめざした学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

教材やＩＣＴ等を効果的に活用しながら、「宇都宮モデル」を軸として、授業の展開・改善を図る。

- ① 「宇都宮モデル」（「はっきり」、「じっくり」、「すっきり」）の各過程の指導の質的向上を図る。
- ② 単元や題材等の指導と評価の計画に、学習を見通し、計画を立てる場面、学習を振り返る場面等を設定した上で、児童が課題の解決に向けて粘り強く取り組みながら、自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整していくこと（主体的に学習に取り組む態度を育むこと）ができるよう、指導・支援を行う。
- ③ 児童の発達段階を踏まえながら、学習内容や学習活動に応じて 1 人 1 台端末を効果的に活用し、授業の質的向上を図る。
- ④ 児童の発達の特性や理解度に応じた効果的な学習が展開されるよう、課題の提示や展開の仕方などに、特別支援教育の視点を取り入れ、個別最適な指導の充実を図る。

(2) 他者への思いやり、基本的生活習慣、規範意識、自己肯定感の育成

- ① 宮っ子心の教育、人権教育、体験活動、読書活動、特別活動、児童生徒指導の充実により、他者への思いやりや規範意識を育み、いじめを生まない指導・支援に努める。
- ② 魅力にあふれ安心して過ごせる学校づくりにより不登校の予防に努めるとともに、組織的な対応による支援の充実を図る。
- ③ 児童と向き合う時間を確保し、児童個々のありのままの姿を受け止めるよう努めるとともに、役割を分担し協力して取り組む機会や異年齢交流など年少者を世話する機会等の充実及び、様々な行事や体験活動など達成感や成功体験を得させる場の充実を図ることにより、自己肯定感を育む。
- ④ 「あいさつ」「返事」「時間」「生活リズム」「言葉遣い」を中心に、基本的な生活習慣を育む。

(3) 体力の向上と健康の保持増進

- ① 宇都宮市学校健康教育推進計画を踏まえ、「体力の向上」、「保健教育」、「食育」、「安全教育」の 4 つの教育を一体的に捉えた、元気アップ教育の推進を図る。
- ② 教科体育の充実を図り、基礎的な体力と運動やスポーツに親しむ態度を育成するとともに、外遊びの奨励、「うつつのみや元気っ子チャレンジ」の実施など、教育活動全体を通して、運動機会を創出する。
- ③ 食育の推進を通して、望ましい食習慣を形成するとともに、感謝する心の醸成を図る。

(4) 教職員の資質能力の向上

- ① 向上心をもって、根拠を基に主体的に考え、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を高めるとともに、学校作りのチームの一員として、自己の持ち味を生かしながら、組織的・協力的に諸課題の解決に取り組む専門的な力を身に着ける。
- ② 授業研究会を軸とした校内研修の充実により、相互に高め合い、学びあう協働的な同僚性を構築し、教職員の実践的指導力と専門性を向上させる。なお、養護教諭、学校栄養士、学校図書館司書との T T による授業を積極的に展開し、専門性を生かす方策を研究する。
- ③ 勤務時間を意識するとともに業務改善を推進することにより、ワークライフバランスのとれた働き方の実現を図り、教職員一人一人が、心身共に健康で、能力を最大限に発揮できるようにする。

(5) 地域とともにある学校づくりの推進

- ① 学校、家庭、地域が目標やビジョンを共有し、相互に連携・協働することによって、子どもたちの豊かな学びと成長を実現する。

○② 学校園における小中の連携と、義務教育 9 年間を一体とした指導によって、学校生活へ円滑に適応させ、学力を保障

する。

- ③ 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化に努め、学校、家庭、地域が適切な役割分担のもと、相互に連携・協力を推進する。

【一条地域学校園教育ビジョン】

「基本をしっかり身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領、宇都宮市立小中学校の教育課程及びその編製の基準に従い、教育課程を編成する。
- (2) うつのみや学校マネジメントシステム、学習内容定着度調査等の各種調査結果やデータを効果的に活用し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、特色をもった教育課程を編成する。
- (3) 学習の基盤となる資質・能力やSDGs等に係る現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成していくことができるよう、問題解決的な学習の充実を図るとともに、教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
よりよい学校生活を築くために主体的に考え、課題解決を図ろうとする教職員及び児童の育成
- (2) 学習指導
「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした指導方法の工夫
～「思考力と表現力の育成」を目指した授業の実践を通して～
- (3) 児童生徒指導
規範意識をもち、自他を大切にすることができる児童の育成
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
基礎体力の向上と望ましい食習慣の形成をめざした指導の充実

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上	・確かな学力を育むため、知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう力等を養うなどして、学習指導を充実させる。 ① 「宇都宮モデル」を活用した授業改善を推進する。 ※「宇都宮モデル」とは、学習課題を「はっきり」、課題への取り組みを「じっくり」、まとめを「すっきり」という授業のスタイルのこと ② 「西小よい子の学習の約束」を活用し、基本的な学習態度の指導を徹底するとともに、友達と話し合ったり、友達と情報を集めるなど、児童が積極的に自分の考えを発言できる雰囲気をつくる。 ③ 家庭学習の習慣化に向け、家庭学習強化週間の設定を行う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 94.8%で、数値目標を大きく上回った。保護者の肯定的回答は 90.6%で数値指標を上回った。学校課題において授業改善に取り組み、主体的に取り組む姿が見られた。他者に情報を発信しようとする意欲は高いが、比較検討し、考えを再構築する深い学びに到達していないという課題がある。 【次年度の方針】 「宇都宮モデル」を意識した授業改善「学習の約束」や「授業のきまり」などについて学習態度を身に付けさせるべく、基礎基本の徹底を図る。また、家庭学習強化週間などを設け、家庭学習の習慣化に向けた取り組みを家庭に発信していくなど継続指導していく。

1-(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上	・思いやりの心を育てるため、「宮っ子心の教育」を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。 ① 児童のよさや努力等を積極的に認め励まし、学校学級全体に広めたり、家庭に知らせたりする。 ② 他者を意識した言動や行動の大切さについて、学級活動の時間や様々な場面において全職員で指導にあたっていく。 ③ 「親切・思いやり」「正直・誠実」について多面的・多角的に考え、話し合う「道徳科」の授業づくりに取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答は昨年度より 2.6 ポイント上回り 90.8%であった。学校全体で共通理解を図り、道徳科の授業では、どの学年でも積極的に話し合い活動を取り入れ、豊かな心を育んできた。また、各学級で、気持ちのよい言葉や行動について考え、日頃から互いを認め合う関係性の構築に向けた取り組みを実践してきており、自他のよさに気付き、思いやりのある行動をすることにつながっている。 【次年度の方針】 全職員及び全児童で積極的に思いやりある行動について認め励ます機会を設け、児童同士の信頼関係を高め、児童一人一人が自己有用感を持てるようにしていく。道徳の授業を重視し実践すると共に、指導を要する場面では、互いに理解し合いよりよい関係を築くことを大切にしながら丁寧に指導をしていく。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・やり遂げる達成感を味わわせるため、学校行事や各教科の指導の工夫に取り組み、失敗や困難を乗り越えて挑戦し続けるたくましさを涵養する。 ① 「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」について学校行事等、様々な教育活動を通して体験し活動を振り返り達成できた充実感を感じられるよう指導する。 ② 各教科の学習において、既習事項を用いて学べる学習課題や、段階的に発展させることができる課題に取り組みさせる授業を実践し、児童が達成感を得ることができるようにする。 ③ 児童が行事・教科等で目標をもち、学習後には振り返りをするこ とで、次の活動の目標につなげる ようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で、数値目標を大きく上回った。普段から目標を立てること、見通しをもって取り組むこと、段階を設けて解決させること、振り返りを行うことなどを意識して、達成感を得られるよう工夫して指導にあたってきたおり、粘り強く取り組む児童が増えてきている。 【次年度の方針】 行事、学習等において、児童が目標をもって取り組み、終わった後に、振り返りをし、次の活動の目標につなげようとする意識をもたせていく。この指導のサイクルを重視して教育活動を行っていく、児童が目標に向かって頑張るということを、教育活動全般を通して学べるように指導していく。児童が自ら考える活動や体験活動を多く取り入れるようにし、やりがいを感じられるようにする。また、保護者の肯定的回答は 84.7%であり、教職員の見とった児童の姿を発信し、保護者と共有し、保護者から児童にフィードバックしてもらうことでさらに高めていきたい。

1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上	・心身ともに健康で、たくましい児童を育てるため、「元気アップ教育」を充実させるなどして、健康で安全な生活を実現する力を育む教育を推進する。 ※「元気アップ教育」とは、「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」について小中9年間を通して取り組む教育活動のこと。 ① 教科体育における運動量の確保や元気っ子チャレンジへの参加やがんばりカードの積極的活用を通して体力を向上させる。 ② 養護教諭や学校栄養士と連携した授業に取り組み、健康への関心を高める。 ③ 運動委員会の企画等、児童主体の活動を活性化する。 ④ 地域や保護者と連携し、避難訓練や地域安全マップの作成をはじめ、学校教育全体を通して、危険を予測し、自分の命は自分で守ることの大切さについて指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は89.1%で、数値目標をわずかに下回った。コロナ禍の数年と比べて、児童の感染症への意識が下がったという自己評価があった可能性がある。教科体育時の充実や、家庭への呼びかけ、朝わくや縦割り班活動等の遊びの充実により運動量は確保されている。養護教諭や栄養士の授業により、正しい手洗いの仕方を学習し、食への関心が高まった。今年度も避難訓練を実施し、不測の事態に備える意識が高まった。また、交通安全教室を行ったり、継続的な下校指導を行ったりしたことで、交通安全の意識が高まった。委員会活動でも児童主体で、健康について呼び掛けたり、児童が楽しめる運動イベントを企画したりすることができた。一方で、体力テストの結果が全国平均を下回っている。廊下を走ったりするなど、廊下の歩行等に課題が見られることがあるので、安全確保のため、日常生活における安全意識が向上するよう指導していく。 【次年度の方針】 運動委員会等を中心に、児童が自発的に運動する活動を企画することを積極的に行い、外で遊んだり体を動かしたりすることへの関心をさらに高めるようにしていく。体力テストは学年によって得意不得意が違うので、教科体育で学年の実態に応じた補助運動を取り入れ、運動量を確保していく必要がある。また、家庭を巻き込んだ取り組みを一層充実させていく。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	自分のよさや頑張り気付け、自己肯定感や自己有用感を高めるようにするため、「宮・未来キャリア教育」の充実を図るなどして、将来への希望と協働する力を育む。 ① 係活動や当番活動は、生活をよりよくしていくために大切であることを意識して主体的に取り組めるようにし、自己有用感を感じられる活動にする。 ② 特別活動において、一人一人の持ち味を生かした役割分担を行う。 ③ 総合的な学習の時間・生活科・特別活動などを中心に、活動の振り返りを確実にし、自分のよさや成長に気付かせる指導を行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、数値目標を大きく上回った。学級活動において、学級をよりよくするための係活動を計画して実践したり、特別活動において、児童が学校や学級をよりよくしようと提案し、一人一人役割をもって活動したりし、協力しよりよい生活をしようとする意識が向上している。総合的な学習や生活科においても活動の後に必ず振り返りを行うことで、自分の成長や学びに気付くことができた。 【次年度の方針】 児童が、学校生活をよりよくするために積極的に提案し、自分自身の役割に責任をもって取り組むことができるように児童を支援するとともに、頑張り認め励まし、発信できるように努める。また、生活科・総合的な学習の時間の学習の振り返りを確実にし、児童が成長に気付き、自分の夢や目標に繋がれるよう指導を工夫していく。また、児童の苦手さを肯定的に受け止め、自己肯定感の高揚につなげていく。

2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 児童の肯定的回答 ⇒80%以上	・英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるため、英語教育の充実を図るなどして、「グローバル社会」に対応する教育を推進する。 ① ALTや1人1台端末の音声読み上げ機能を活用し、ネイティブの英語に触れる機会を十分に確保する。 ② 外国語の授業では、英語によるやりとりを中心とした授業を展開し、英語で伝え合う楽しさを味わわせる。	(達成状況) 児童の肯定的回答は88.5%で、数値目標を上回った。ALTと毎時間の学習計画の確認を行うことで、T1とT2の役割をはっきり位置づけし、外国語を用いたコミュニケーション中心の授業の展開を行うことができています。 【次年度の方針】 ALTとの連携を密にし、児童が積極的に英語でコミュニケーションを図れるような授業展開を工夫し、英語教育の充実を図るとともに、外国語特有の発音や表記の知識の定着も図っていく。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 児童の肯定的回答 ⇒80%以上	・宇都宮の伝統や文化に愛情と誇りをもてるようにするため、郷土への愛情を育む学習の充実を図るなどして、郷土愛を醸成する教育を推進する。 ① 社会科や総合的な学習の時間における郷土の学習や「地域が先生」における「ふくべ細工」「百人一首」等の学習活動の充実を図る。 ② 学校便りや学年便り等で宇都宮学への取組について発信する。 ③ 「ベストフェスタ in 西」や「西地区大運動会」などにおける地域との関わりを通して、地域の人々への愛情や感謝の気持ちを育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答は88.5%で、数値目標を上回った。全校児童による「ベストフェスタ in 西」が再開して3年目となり、「西地区大運動会」や「地域が先生」などの体験活動の充実を図ることができたことで、子供たちの郷土への意識の向上が見られた結果であると考えている。また、保護者の肯定的回答は80.4%であり、宇都宮の伝統や文化に愛情と誇りをもてるようにするため、今後とも「ベストフェスタ in 西」等の機会を生かしていく。 【次年度の方針】 「ベストフェスタ in 西」「西地区大運動会」「宇都宮学」「地域が先生」「西子どもインターンシップ」などの学習を通して、宇都宮への郷土愛を育ませる授業を計画し、確実に実施する。また、学校だより・学年だより等で保護者に周知する機会を設ける。
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童の肯定的回答 ⇒80%以上	・情報活用能力を身に付けさせるため、情報活用能力を育成する教育の充実を図るなどして、「情報化社会」に対応する教育を推進する。 ① 国語や道徳、学級活動における情報モラル教育を確実に実施する。 ② 児童が必要に応じてICT機器や図書資料、新聞などを取捨選択し、そこから正しい情報が得られるように指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.1%で、数値目標を上回った。今年度全ての学年においてICT機器を活用した授業実践により多くの成果が得られた。また、図書館司書と連携し、主に国語科や総合的な学習の時間における図書資料の活用を計画し、適した図書資料を学級にて適宜活用することができている。 【次年度の方針】 各教科において学年の実態や発達段階に応じて情報モラル教育を定期的に確実に実施する。また、学校図書館司書教諭や図書館司書業務嘱託員と連携を図り、ブックトーク等を実践し、授業改善を図っていく。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「私は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 児童の肯定的回答 ⇒80%以上	・「持続可能な社会」について関心を持てるようにするため、児童の発達段階に応じ、各教科の学習を通して、「持続可能な社会」に対応する教育を推進する。 ① 総合的な学習の時間において、環境や国際理解、食をテーマとして地域の学習素材を活かし指導するとともに、「持続可能な社会」に関する各教科の単元との関連も図りながら教科横断的な学習を展開する。 ② 節水や節電、ごみの分別など、日常生活において環境問題を意識した教育活動を実践する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.8%で、数値目標も大きく上回った。学年の発達段階に応じて、「持続可能な社会」意識付けを図ると共に、学習内容に SDGs を盛り込んだ学習計画や実践を継続している。 【次年度の方針】 社会に目を向けさせ、児童の興味関心を引き出させるよう努めるとともに、学習活動においては、「SDGs」など具体的な知識の習得を図る。また、日常生活において、環境に配慮した取り組みなどの実体験を意識した教育活動を設定する。他にも、「クリーンアップ in 西」等の活動や日頃の給食時のごみの分別等、環境を意識した指導を積み重ねる。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・特別な支援を必要とする児童の様々な教育的ニーズに対応するため、実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫するなどして、適切な指導及び必要な支援を行う。 ① 特別な支援を必要とする児童にとっても、わかりやすい指示や教材を工夫して授業を展開する。 ② かがやきルーム指導員と学級担任が連携し、かがやきルームにおける指導を充実させるとともに、年度途中にも見直しを行い、終了や入級を柔軟に実施する。 ③ 教育支援委員会やケース会議を開き、共通理解のもと指導にあたり、必要な場合は関係諸機関との連携を図り指導する。 ④ 特別支援教育の研修を充実させ、児童に適切な支援を行えるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は昨年度に続き 100%で、数値目標を大きく上回った。特別な支援を必要とする児童への指導内容や指導方法について、保護者の思いを大切にしながら関係諸機関との連携を図った。ケース会議を重ね、常に職員の共通理解の元、同一歩調で支援を継続できた。 【次年度の方針】 保護者の思いを大切に、関係機関との連携を図りながら、ケース会議など職員間の共通理解のもと、全職員が統一した指導・支援を行う。 かがやきルームについては、年度途中であっても見直しを行い、終了や入級を柔軟に実施する。 特別支援研修や特別支援教育だよりの発行において、児童への支援の仕方の充実を図る。

A11 教職員は、いじめが許
されない行為であることを
を指導している。
【数値指標】
「学校は、いじめ対策に熱心
に取り組んでいる。」
保護者の肯定的回答
⇒85%以上

- ・「西小いじめ防止基本方針」に基づ
き、いじめ根絶に向け、いじめの未然
防止、早期発見、早期対応、組織的な
対応を行うなどして、学校全体でいじ
め防止の取組を実践する。
- ① 意識の高揚を図るため、いじめ根
絶集会の実施や「ふわふわ・ちく
ちく言葉」等の日常的な言葉の指
導、未然防止につながるスローガ
ンや標語の作成・掲示を日常的に
行う。(未然防止)
 - ② 「親子で考える道徳」の実践を通
して、道徳的価値について家庭と
連携して指導していく。
 - ③ 学校生活アンケートや Q・U 調査
結果をもとにした教育相談を実
施するとともに個に応じた指導
を実施する。(早期発見・早期対応)
 - ④ 同僚や管理職への「報・連・相」、
「いじめ等対策委員会」の開催な
どを確実にし、情報を共有して
適切に対応する。(組織的な対応)
 - ⑤ いじめ根絶に向けた取り組みを
児童指導便りや HP、学級懇談会を
通じて家庭や地域に情報発信し、
連携して児童を見守る体制の構
築していく。
 - ⑥ 毎日の学級活動を通して児童の
自己肯定感や自己有用感を高め
たり、道徳の授業を通して道徳性
を高めたりすることで、いじめの
ない居心地のよい学級づくりを
行う。

【達成状況】

保護者の肯定的回答は 85.3%で、数
値目標をやや上回った。児童の肯定的回
答は 97.1%で昨年度よりやや上回って
いる、教職員は 100%である。今年も相
手の気持ちを考えた言葉掛け「ふわふわ
言葉とちくちく言葉」をテーマにいじめ
ゼロ強調月間を 2 回実施した。いじめ根
絶に向けて、教職員で共通理解を図り、
いじめは許されない行為だということ
の指導、委員会による啓発の場面の設
定、学級で道徳の時間を大切にしたり、
学級活動で言葉掛けについて話し合っ
て掲示物を作成したりするなど、児童主
体の活動を多く盛り込んだことで、児童
自身のいじめ根絶に向けた意識の高ま
りが見られている。また、年間に 2 回設
定した教育相談週間には、特別日課を設
定し、学級担任が児童と十分に話し合
い、悩みに寄り添う機会となった。その
他、毎月職員間で児童について情報共有
し、児童指導便りを通して保護者への情
報発信を積極的に行ってきた。

【次年度の方針】

これまでの取り組みを続けると共に、
全教職員の共通理解の下、全教職員でい
じめへの理解を深め、いじめを許さず互
いに認め合う学級集団作りに努め、児童
の意識を高める。また、学校生活アンケ
ートを活用し教育相談をさらに充実さ
せる。児童会や委員会等児童主体で行う
いじめゼロ強調月間等によって、引き続
き児童が自ら考え、学校全体でいじめを
許さない雰囲気づくりに努める。また、
学校での取り組みを便りや学級懇談会
等で積極的に家庭や地域に発信し、家庭
でもいじめを許さず、自己肯定感を高
め、互いに認め合う意識を高められるよ
う、連携して児童を見守る体制を構築す
る。また、いじめに関わる事案を、一番
早くキャッチできるよう、児童との信頼
関係のさらなる強化を図っていく。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 「教職員は、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上	・不登校の未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応に努める。 ① どの児童にとっても自分の居場所となる温かい雰囲気学の級経営を行う。(未然防止) ② 担任は児童・保護者に積極的にかかわり、普段からの信頼関係づくりに取り組む。(未然防止・早期発見) ③ 児童指導連絡会、欠席状況共有シートや保健室への来室状況などにより児童の状況を把握し、早期に支援の検討を行う。(早期対応・組織的対応)	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 90.7%で、数値目標を大きく上回った。教職員が児童の頑張りを目を向けて賞賛したり、児童同士がよいことを発表し合ったりすることで、互いに認め合う温かい学級経営につながった。毎月行われる児童指導連絡会や欠席状況共有シート、保健室への来室状況を教職員同士で共有することで、児童の困り感に早期に目を向けて対応にあたっていくことに繋がっている。さらに児童が安心して登校できる環境づくりをするために、家庭との綿密な連絡を心がけ、対応に当たっていく必要がある。 【次年度の方針】 引き続き温かい人間関係を育む学級経営を行っていくことに加え、児童の些細な変化についても積極的に情報交換し、児童の困り感に寄り添うきっかけとしていく。不登校傾向が見られる場合には組織的に対応を検討し、早期に支援ができるようにする。さらには、児童の様子を家庭に伝えて連携を図っていくことで、未然防止や早期解決につなげていく。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実 3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいそいそとした雰囲気である。 【数値指標】 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上	・児童が自己のよさを生かせるよう、創意工夫した教育活動に取り組む。 ① 児童会活動を工夫することで、楽しく異年齢交流ができるようにする。 ② 児童の思いや願いを実現できるような学級活動を工夫し、全員が学級への所属意識を持てるようにする。 ③ 個性を認め合う受容的な学級づくりを行う。 ④ 教職員は、児童と共に考えたり遊んだりするなど、児童と向き合う時間を大切に、信頼関係を構築する。 ⑤ 朝わくの回数を増やし、楽しく学校生活をスタートできるようにする。 ⑥ 特別支援教育の研修を充実させる。 ⑦ 人権教育を充実させる。 ⑧ 各種便りや学校ホームページなどを活用し、学校の様子を積極的に発信する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 95.4%で、数値指標を上回った。 意図的・計画的に、毎月、縦割り班活動を実施し、遊びを工夫しながら異学年交流を図ることができた。各委員会で児童が創意工夫を凝らした企画を考え実施し、全校児童で楽しく取り組んだ。児童の思いや願いを実現できるよう、各学級においても、学級活動におけるお楽しみ会など活動を工夫して、児童主体で実施するとともに、個性を認め合いながら協力して活動するようにしてきた。児童と向き合う時間を大切にするために、児童が楽しみにしている朝わくをできるだけ実施できるようにしてきた。教職員は研修を通して、特別支援教育や人権教育の充実を行ってきた。今後も、一人一人の児童の実態に応じた対応を実践していく。 【次年度の方針】 これからも、児童が自己のよさを生かせるよう、児童の思いや願いを生かした児童会活動や学級活動の内容を工夫して児童主体の活動を増やしていく。朝わく等は、計画的に回数を確保し、児童と教職員で触れ合うとともに活気ある生活を送ることができるようになる。また、児童の話に傾聴し、丁寧に対応していくことで「自分が大切にされている」という意識を、全児童がもてるようにしていく。

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上」	・教職員の授業力を高めるため、校内研修を充実させるなどして、実践的指導力と専門性を向上させる。 ① 「宇都宮モデル」を活用した一人一授業の実施を通して、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を視点とした授業改善に取り組むとともに、学び合いを重視した授業実践の研究を行う。 ② 授業の質の向上のために、教職員同士授業参観と意見交換の機会を設ける。 ③ 小テストを計画的に実施し基礎基本を確実に定着させる。 ④ 習熟度学習やチームティーチング等、個に応じた学習支援を充実させる。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 98.3%で、数値目標を大きく上回った。学力向上のために、学校課題にて「対話的で深い学びの育成」のための授業改善を図ってきた。授業において学習計画や手順を示し、見通しをもたせて課題解決に取り組むことで、児童の主体性が育まれてきた。 【次年度の方針】 宇都宮モデルを活用した授業を引き続き実践し、「主体的・対話的な学び」「深い学び」を視点とした授業実践を継続する。また、かがやきルーム、習熟度別学習やチームティーチングなど、個に応じた学習支援を継続する。また、小テストや教科書付属テスト等を使用し、基礎基本の定着を図っていく。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図るため、多様なスタッフの専門性を発揮できるようにする。 ① 養護教諭や学校図書館司書、学校栄養士業務の専門性を生かして、学年の系統性を考慮した授業を計画的に実施する。 ② インターネットバンキングや学校徴収金システム等の活用により業務の負担軽減を行う。 ③ SCM を中心として、スクールカウンセラー等と連携することで、児童指導の充実に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は昨年度同様100%で、数値目標を大きく上回った。全教職員がそれぞれの立場で、専門性を生かして学校経営に参画している。今年度も、担任以外の教職員の専門性を生かした授業を実施した。学校事務の学年会計等への参画により、担任は児童と向き合う時間を確保できた。 【次年度の方針】 教職員間で情報共有を図り、多様なスタッフの専門性を生かし、チームで学校運営に取り組んでいく。これからも、SCを効果的に活用し、児童指導の充実に努める。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 教職員の肯定的回答 ⇒85%以上	・教職員の健康と安全を確保し、質の高い教育活動を維持していくため、勤務時間に対する意識改革や具体的な業務軽減策の実施などを通して、働き方改革を推進する。 ① 毎月、リフレッシュデーを設定するとともに、教職員で声を掛け合い、定時に退勤する雰囲気を作る。 ② 学級事務支援スタッフや担任以外の教職員と担任が連携し、学級事務の負担軽減につなげる。 ③ 教材研究等を行うための放課後の時間を確保するために、業務の効率化について研修で意見を出し合い改善を図る。時間を厳守して生活にメリハリをつける。 ④ 会議や研修の終了時刻を、プレート等で提示し、意識する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は昨年度を9.4%上回り、94.4%である。学級事務支援スタッフとの連携は学級事務の負担軽減に繋がっている。毎月のリフレッシュデーを設定するとともに、声かけをし、定時に退勤する雰囲気づくりをした。施設利用者の鍵の貸出や忘れ物を取りに来る児童の対応もあった。さらに業務の効率化について教職員が当事者意識をもって意見を出し合い、できることから実施する必要がある。 【次年度の方針】 教職員で働き方改革の目的を共有し、全教職員が当事者意識をもって業務の効率化に取り組むようにする。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・児童の学校生活適応と学力保障を目指し、小中教職員の緊密な連携に基づく指導を充実させるなどして、地域学校園を生かした学校運営を推進する。 ① <u>地域学校園あいさつ運動、乗り入れ授業、お弁当の日、クリーンアップ活動、西地区大運動会で交流を進める。</u> ② 教職員間の交流を図るため、小中一貫の日を設け、研修会や会議等を実施する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、数値目標を大きく上回った。 今年度も、運動会やクリーンアップ in 西等の学校行事で交流を深めた。 地域学校園で各部会・教科部会を開催した。 【次年度の方針】 ○小中の連絡を密にし、児童間の交流を充実させる。地域学校園の研修では意見を出し合い連携を深めていく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 地域住民の肯定的回答 ⇒80%以上	・家庭・地域とのつながりを強化できるように、地域とのつながりを深めながら、地域の教育資源を有効に活用できる体制づくりを促進するなどして、学校運営を行う。 ① 各種便りや学校ホームページなどを活用し、学校の様子を積極的に発信する。 ② 学習支援や環境整備、児童の健全育成・安全確保などについて、「西小魅力ある学校づくり地域協議会」や地域の諸団体との連携を強化する。 ③ 企業等の出前授業を有効に取り入れ、教育活動の充実を図る。 ④ 「地域が先生」や「ふれあい交流」などの授業を推進する。	【達成状況】 地域住民の肯定的回答は、昨年度を8.3%上回り100%で、数値目標を大きく上回った。 企業等の出前授業を積極的に取り入れた。「地域が先生」や「ふれあい交流」、「昔遊び」「幼稚園との交流会(幼保小連携)」等の授業も実施し、充実した教育活動を行うことができた。学校の様子を学校だよりや学校ホームページで日々、発信した。地域協議会での教育活動紹介も有効であった。 【次年度の方針】 地域の教育資源を活用した学習活動について継続して発信していく。今後も引き続き、西小魅力協(コーディネーター)との連携を図り、地域や保護者から多くの協力を得られるよう体制作りを工夫する。企業等の出前授業も有効活用する。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 教職員の肯定的回答 ⇒90%以上	・児童及び学校を利用する全ての人が安全に過ごせるように、施設・設備の定期的な安全点検の実施などを通して、教育環境を整備する。 ① 月1回安全点検を確実に実施し、修繕や改善が必要な箇所については、速やかに対応する。 ② 児童が多く使う箇所については、指導者が日常的に点検を行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、数値目標を上回った。 毎朝、校舎内外の点検をして、修繕が必要な箇所があれば、すぐに対応した。毎日、改修工事業者と連絡を取り合い、児童の安全に配慮した。 【次年度の方針】 安全点検を確実に実施するとともに、事務職員や学校業務、機動班と連携し、速やかに修繕をする。今後も引き続き、改修工事業者と連絡を密に取り合い、児童の安全に十分配慮する。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができています。 【数値指標】 「私は、授業(授業準備も含む)や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・教職員が必要に応じてデジタル教科書やデジタル教材等を活用することができるように、環境を整備する。 ① クラウド上で教材等を共有したり、ブラウザアプリを効果的に活用したりして業務改善に努める。 ② ICT支援員と連携を図り、デジタル化できる教材や校務資料の作成を推進し、活用する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、数値目標を大きく上回った。デジタル機器を活用するスキルが向上し、活用する機会を取り入れた授業実践ができています。 【次年度の方針】 「Google」各アプリケーションや授業支援ソフトなどを継続的に活用していく。また、デジタル教材の共有をクラウド上でを行い、授業の効率化や改善に役立てる。また「校務DX」の推進を図っていく。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「児童（生徒）は、時と場に応じたあいさつをしている。」 教職員肯定的回答 ⇒80%以上	・自分から進んで気持ちのよいあいさつができるようにするため、あいさつ運動を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。 ① 児童会や各学年代表児童、一条中やPTAによるあいさつ運動を展開し、自分から進んで学校や地域の人への挨拶に取り組む実践を積ませる。 ② 学級での授業開始・終了時や特別教室での入退室時など、時と場面に応じたあいさつの指導を徹底する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、数値目標を大きく上回った。保護者は、やや上回っている。 ほとんどの児童が自分から元気なあいさつをしている。これは、担任の日々の指導や児童会主催のあいさつ運動の成果だと思われる。代表委員児童が一条中生徒と合同であいさつ運動を実施したり、学年ごとに立哨してあいさつ運動をしたりするなどあいさつ運動の強化により、あいさつの輪が広がっている。また、学級内だけでなく様々な場面で多くの教職員からあいさつの仕方について指導を受けることで、児童一人一人が時と場に応じたあいさつの仕方について理解するきっかけとなっている。校内では一方で、地域住民の肯定的回答が下がっている。引き続き場に応じたあいさつについて指導していく必要がある。 【次年度の方針】 全職員による時と場に応じたあいさつ指導の徹底や、児童会や一条中、PTA等による様々な形態でのあいさつ運動の充実、児童会で児童主体で考えたあいさつ運動の在り方の工夫により、引き続き誰もが自分から気持ちのよいあいさつができる意識を高めると共に環境づくりをする。家庭にも啓発する。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上	・規範意識を育むため、児童指導及び「道徳科」の授業を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。 ① 「西小よい子の一日」を意識して生活できるよう指導するとともに、自分の生活を振り返る機会を設定し、定着を図る。また、校内のきまりに関して柔軟に見直しを検討する。 ② 児童会や委員会が主体となり、生活のきまりについて啓発する場を設定する。 ③ 年度初めに年間を通した生活のきまりやマナーを設定し、時期に応じて強化項目を決め、校内巡回指導をしながら定着を図る。学校生活における指導の方向性について全教職員で徹底を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は昨年度を上回り92%で、数値目標を上回った。学校生活のきまりやマナーについて「西小よい子の一日」や「月別の生活目標」を規準として、全教職員で指導の方向性を合わせながら指導に当たった。また、委員会活動では、それぞれの立場で、児童主体できまりやマナーについて啓発を行った。きまりやマナーを守ろうとする意識の高まりが見られる反面、個人差があり、礼儀正しい言葉遣いや時間の意識や学習の準備・身だしなみなど十分に身に付いていない面も見られる。 【次年度の方針】 児童会や委員会活動の活性化や教職員の指導の方向性の徹底を継続しつつ、教職員で意見交換をし、児童の生活の様子に合わせて「西小よい子の一日」を柔軟に見直していく。場に応じた言葉遣いについても日常的に指導していく。さらに学級活動等で児童自身に考えさせることで、積極的にきまりやマナーを守る環境づくりをしていく。

	B 3 児童は、異年齢の友達と遊んだり、年少者をいたわりながら活動したりしている。 【数値指標】 「私は、ほかの学年の友達と仲よく遊んだり、協力して活動したりしている。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上	・他者への思いやりの心や自己肯定感を育むため、縦割り班による活動を充実させて、学年や立場に応じた態度で活動できるようにする。 ① 縦割り班による清掃活動において、上級生が下級生の世話をしながら清掃に取り組めるよう指導する。 ② わくわくタイム、クラブ、委員会活動などの異学年交流の場で、学年に応じた役割を与え、異年齢の友達と積極的に交流が図れるよう指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.5%で、昨年度よりもやや下回ってはいるものの、数値目標を上回った。縦割り班活動による清掃やわくわくタイムの実施が、日常的に行われ、それぞれの学年の応じた役割を理解し、積極的に関わる様子が見られている。特に上学年の児童は、下学年に合わせ、優しく接する姿が見られた。6年生による入学時の 1 年生に対する支援や、上学年と下学年合同での体力テストなど関わり合う機会を多く設けている。異学年同士が協力して活動に取り組んでいる。縦割り班清掃では、上級生が下級生の面倒をみて、やり方の分からない児童に教える姿が見られる。休み時間にも、上級生が下級生とともに遊ぶ姿が見られた。 【次年度の方針】 引き続き縦割り班活動やそれ以外の場面でも、異学年交流の場を積極的に設けていく。その際には、上級生に対して役割を与え、立場に応じた態度が十分に身に付けられるようにしていく。
	B 4 教職員は、児童一人一人のよさをほめて伸ばす指導を行っている。 【数値指標】 「先生方は、わたしのいいところを認め、ほめてくれる。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上	・自己肯定感を育むため、「ほめて伸ばす指導」を充実させるなどして、すべての児童が自信と誇りのもてる学校づくりを推進する。 ① 「多読賞」「きらり賞」「清掃頑張りカード」等を通じてよい行いを賞賛する。 ② 様々な学習の場面で具体的に児童をほめる機会を設け、全員の児童をほめるようにする。 ③ 児童の頑張りやよい行いを、家庭にも連絡する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は昨年度をやや上回り 94.8%であり、数値目標を上回った。「多読賞」「きらり賞」「おそうじ名人賞」等で、児童の頑張りを学校全体で認める機会を設けたことや、どの学級も友達からも賞賛される機会を設けてきたこと、学級担任だけでなく、様々な教職員からもよさを認めるように努めてきたことが積極的な行動や規範意識の向上に大きく繋がっている。教職員は、児童に温かなまなざしで接し、意欲的に取り組めるような励ましの言葉をかけている。学級内では当番や係活動の充実により、自分の得意なことを生かした活動を増やしていくことで、自己有用感の向上に繋がっている。 【次年度の方針】 引き続き校内表彰の実施や、担任や担任以外の教職員からの、積極的な児童一人一人への賞賛の言葉掛けや、児童が自信をもって取り組める活動の充実に努め、伸び伸びと学校生活が送れるようにしていく。

	B 5 児童は、地域や学校のために積極的に働いている。 【数値目標】 「児童は地域や学校のために積極的に働いている。」 地域住民の肯定的回答 ⇒85%以上	・役割を果たす充実感や社会貢献への喜びなどを味わわせるため、学校・地域のためのボランティア活動を体験させるなどして、社会に参画し、協働する力を育む教育を推進する。 ① 「クリーンアップ in 西」の事前・事後指導を充実させ、校外ボランティア活動を体験させる。 ② 道徳や学級活動等の時間に働く意義について考えさせる。 ③ 地域や学校のために働く「子どもボランティア」活動を推進する。 ④ 総合的な学習の時間における地域単元「ひまわりプロジェクト」において、地域の一員として自分にできることを考え実践させていく。 ⑤ 自主的・自発的な委員会活動を推進し、働く楽しさを体験させる。	【達成状況】 地域住民の肯定的回答は、87.5%であり、数値目標を上回った。 今年度も「クリーンアップ in 西」で、地域や学校の清掃を行い、地域や保護者の方と一緒に、地域や学校のために働く校外ボランティア活動を推進した。 児童が、運動委員会「運動週間（マラソンがんばりカード）」、図書委員会「校内読書週間」、給食委員会「まめつかみ大会」等、各委員会で、自主的・自発的に、全校児童のためのイベントを企画し、働く楽しさを体験させることができた。 B 【次年度の方針】 地域や学校のために働く意義を道徳や学級活動等の時間に考え、学年に応じたボランティア活動を自主的・自発的に行えるようにする。
--	---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【宇都宮市小学校全体との比較】

A 1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」について、市と比較しても児童、教職員・保護者の肯定的割合が高い。学校課題において授業改善に取り組み、主体的に取り組む姿が見られた。

A 8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」について、市と比較しても児童、教職員、保護者の肯定的割合が高い。今年度全ての学年において ICT 機器を活用した授業実践により多くの成果が得られた。また、図書館司書と連携し、主に国語科や総合的な学習の時間における図書資料の活用を計画し、適した図書資料を学級にて適宜活用することができている。

A 14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」について、市と比較しても児童、教職員、保護者の肯定的割合が高い。学力向上のために、学校課題にて「対話的で深い学びの育成」のための授業改善を図ってきた。授業において学習計画や手順を示し、見通しをもたせて課題解決に取り組むことで、児童の主体性が育まれてきた。

B 1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」について、市と比較しても児童、教職員、保護者の肯定的割合が高い。一方で、地域住民の肯定的回答が下がっている。代表委員児童が一条中学生徒と合同であいさつ運動を実施したり、学年ごとに立哨してあいさつ運動をしたりするなどあいさつ運動の強化により、あいさつの輪が広がっている。学級内だけでなく様々な場面で多くの教職員からあいさつの仕方について指導を受けることで、児童一人一人が時と場に応じたあいさつの仕方について理解するきっかけとなっている。引き続き、場に応じたあいさつについて指導していく必要がある。

【学校経営】

・A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」について、教職員の肯定的回答が数値指標を上回った。全教職員がそれぞれの立場で専門性を生かして学校経営に参画している。

・A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」について、教職員の肯定的回答は昨年度を9.4%上回った。学級事務支援スタッフとの連携は学級事務の負担軽減に繋がっている。毎月のリフレッシュデーを設定するとともに、声かけをし、定時に退勤する雰囲気づくりをした。施設利用者の鍵の貸出や忘れ物を取りに来る児童の対応もあった。さらに業務の効率化について教職員が当事者意識をもって意見を出し合い、できることから実施する必要がある。

A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」について、市と比較しても児童、教職員・保護者・地域住民の肯定的割合が高い。企業等の出前授業を積極的に取り入れた。「地域が先生」や「ふれあい交流」、「昔遊び」「幼稚園との交流会(幼保小連携)」等の授業も実施し、充実した教育活動を行うことができた。学校の様子を学校だよりや学校ホームページで日々、発信した。地域協議会での教育活動紹介も有効であった。

【学習指導】

A 6「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」について、市と比較しても児童、教職員の肯定的割合が高い。ALTと毎時間の学習計画の確認を行うことで、T1とT2の役割をはっきり位置づけし、外国語を用いたコミュニケーション中心の授業の展開を行うことができています。

A 7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」について、市と比較しても児童、教職員・保護者の肯定的割合が高い。全校児童による「ベストフェスタ in 西」が再開して3年目となり、「西地区大運動会」や「地域が先生」などの体験活動の充実を図ることができたことで、子供たちの郷土への意識の向上が見られた結果であると考えます。今後も、「ベストフェスタ in 西」「西地区大運動会」「宇都宮学」「地域が先生」「西子どもインターンシップ」などの学習を通し、宇都宮への郷土愛を育ま

せる授業を計画し、確実に実施する。

・A9「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」については、児童の数値目標を大きく上回った。学年の発達段階に応じて、「持続可能な社会」意識付けを図ると共に、学習内容にSDGsを盛り込んだ学習計画や実践を継続して指導してきた成果であると考え。今後も、「クリーンアップ in 西」等の活動や日頃の給食時のごみの分別等、環境を意識した指導を積み重ねる。

・A10「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」については、保護者の思いを大切に、関係機関との連携を図りながら、ケース会議など職員間の共通理解のもと、全職員が統一した指導・支援を行ってきた。引き続き、職員の共通理解の元、同一歩調で支援を継続していく。

・A20「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができてい。」については、デジタル機器を活用するスキルが向上し、活用する機会を取り入れた授業実践ができている。「Google」各アプリケーションや授業支援ソフトなどを継続的に活用していく。また、デジタル教材の共有をクラウド上で行い、授業の効率化や改善に役立てていく。また「校務DX」の推進を図っていく。

【児童・生徒指導】

・A3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」については、行事、学習等において、児童が目標をもって取り組み、振り返りをし、次の活動の目標につなげようとする意識をもたせていく指導のサイクルを重視して教育活動を行っており、児童が目標に向かって頑張るということを、教育活動全般を通して指導している。児童が自ら考える活動や体験活動を多く取り入れるようにし、やりがい達成感を得られるよう工夫して指導にあたっており、粘り強く取り組む児童が増えてきている。今後も継続して取り組んでいきたい。また、保護者の肯定的回答は84.7%であり、教職員の見とった児童の姿を発信し、保護者と共有し、保護者から児童にフィードバックしてもらうことでさらに高めていきたい。

・A5「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」については、学級活動や特別活動において、児童が学校や学級生活を向上しようと提案し、一人一人役割をもって活動する等、協力しよりよい生活をしようとする意識が向上している。総合的な学習や生活科においても活動の後に必ず振り返りを行い、自分の成長や学びに気付くことができた。引き続き、児童が、学校生活をよりよくするために積極的に提案し、自分自身の役割に責任をもって取り組むことができるように児童を支援するとともに、頑張りを認め励まし、発信できるように努める。また、生活科・総合的な学習の時間の振り返りを確実にし、児童が成長に気付き、自分の夢や目標に繋がれるよう指導を工夫していく。

・A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」については、全国的に言葉によるいじめが多いということを受け、いじめゼロ強調月間を2回実施した。いじめ根絶に向けて、教職員で共通理解を図り、いじめは許されない行為だということの指導、委員会による啓発の場面の設定、学級で考える道徳の時間の確保、学級活動で言葉掛けについて話し合って掲示物を作成するなど、児童主体の活動を多く盛り込んだことで、児童自身のいじめ根絶に向けた意識の高まりが見られている。また、年間に2回設定した教育相談週間には、特別日課を設定し、学級担任が児童と話し合い、悩みに寄り添う機会となった。さらに毎月職員間で児童について情報共有し、児童指導便りを通して保護者への情報発信を積極的に行ってきた。児童に寄り添い、いじめを見逃さないために、学校生活アンケートを活用し、教育相談をさらに充実させていきたい。学校での取り組みを便り等で積極的に家庭や地域に啓発し、連携して児童を見守る体制を構築していきたい。また、いじめに関わる事案を、一番早くキャッチできるよう、児童との信頼関係のさらなる強化を図っていく。

・A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」については、教職員が児童の頑張りに目を向けて賞賛し、児童同士が役割を持ってよさを認め合うことで、温かい学級経営に繋がった。毎月行われる職員間の児童指導連絡会や欠席状況共有シート、保健室への来室状況を教職員同士で共有することで、児童の困り感に早期に目を向けて対応にあたっていくことにつながっている。さらに児童が安心して登校できる環境づくりをするために、家庭との綿密な連絡を心がけ、対応していくことや、スクールカウンセラーや関係機関と連携し、多面的に関わるようにしていく。

・B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、一条中生徒と合同であいさつ運動を実施したり、代表委員児童があいさつ運動を工夫したり、学年ごとに立哨して全児童があいさつ運動を体験する等のあいさつ運動の強化により、あいさつの輪が広がっている。また、学級内だけでなく様々な場面で多くの教師からあいさつの仕方について指導を受けることで、児童一人一人が時と場に応じたあいさつの仕方について理解するきっかけとなっている。

・B2「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」については学校生活のきまりやマナーについて、全教職員で指導の方向性を合わせて指導にあたった。また、委員会活動では、それぞれの立場で、児童主体できまりやマナーについて啓発を行った。きまりやマナーを守ろうとする意識の高まりが見られる反面、礼儀正しい言葉遣いや時間の意識や学習の準備・身だしなみなど十分に身に付いていない面も見られる。児童会活動の活性化や教職員の指導の方向性の徹底を継続しつつ、児童の生活の様子に合わせて「西小よい子の一日」を柔軟に見直していく。場に応じた言葉遣いについても日常的に指導していく。さらに児童自身に考えさせることで、積極的にきまりやマナーを守る環境づくりをしていく。

・B3「児童は、異年齢の友達と遊んだり、年少者をいたわりながら活動したりしている。」については、縦割り班活動や縦割り班清掃において、交流活動が日常的に行われ、それぞれの学年に応じた役割を理解し、積極的に関わる姿が見られた。入学時の6年生による1年生への支援、体力テストでの関わり、1・2年生の生活科や遠足を通しての関わりなどをさらに充実させ、様々な場面で、立場に応じた温かな対応が身につけられるようにしていく。

【健康（体力・保健・食・安全）】

・A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」については、教科体育時の補助教材や頑張りカードの活用、朝わくや縦割り班活動等の遊びの充実が運動量の確保に繋がった。さらに専門性を生かした養護教諭等の授業により、正しい手洗いの仕方を学習し、食への関心が高まった。様々な場面を想定して避難訓練を実施し、不測の事態に備える意識が高まった。また、総合的な学習の時間で学習したり、交通安全教室を行ったりしたことで、交通安全の意識が高まった。委員会活動でも児童主体で、イベントやPR活動を行ってきた。一方で、新体力テストの結果が全国平均を下回っているのをさらに体力向上に努めていきたい。

7 学校関係者評価

【学習面について】

- ・児童は落ち着いて学習に取り組んでおり、教職員の目も行き届いている。明るく、楽しい雰囲気がある。
- ・児童は授業に集中し一人一台端末を扱っている。教職員は児童を丁寧に指導している。
- ・それぞれの良いところを大事にしながら、児童の自己肯定感、自己有用感を高めている。
- ・地域と結び着いた学習活動を展開している。
- ・西小の良さは地域との協力にある。学校が地域とともに企画したものは、本年度 40 回以上あった。のべ回数としては、1 年間で 100 回以上あり、地域と学校が協力して教育活動に取り組んだ。

【生活面について】

- ・B5「児童は、地域や学校のために積極的に働いている。」については、保護者 85.1、地域 87.5、教職員 100%と、保護者も地域も、児童の取組みを認めているので、遠慮がちな子供達もいるので、児童の自己肯定感を高めてほしい。
- ・A2「児童は思いやりの心を持っている。」、B1「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」の地域住民の評価は低い結果であったが、校外で私達（地域住民）に会うと、子供たちは挨拶を返してくれる等、評価以上に出来ていると思う。
- ・挨拶等、出来ていない場面を、地域住民も共通理解できるといい。挨拶が出来ていない児童を、自治会や商店街等で見かけた時はどうするといいか。気付いた大人が、その場でどう指導するかが大切なことである。

【教職員について】

- ・先生方は頑張って、教育活動に取り組んでいる。
- ・学校評価アンケート結果は教職員の数値が 100%と高く、教職員の意識が高い。継続して児童を指導して欲しい。
- ・教職員の自己肯定感が高まって良かった。先生方の自己肯定感が高まらなないと、子供達の自己肯定感も高まらない。
- ・自らの仕事に誇りを持っているからこそ学校マネジメントの数値が高いのだと思う。
- ・先生方の仕事に対するやりがいが高まっている。とてもいいことである。教師は子供のモデルである。

【宇都宮学について】

- ・A7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」の評価は、保護者 80.4%、教職員 94.4%であった。市の平均よりは高いが教職員も子供達に浸透していないと感じているのではないかな。昔よりよく頑張っている。引き続き指導して欲しい。
- ・宇都宮学は、始まってまだ数年である。西小の子供たちは、この地域、西地区が好きである。児童は安心して生活している。そこが好きにならないと、宇都宮が好きにならない。

【地域について】

- ・我々（地域住民）がどうすればいいか。今回のアンケート結果はとても参考になる。地域がどうすればいいか、各団体がどうすればいいか、それぞれの団体が、自分たちの評価として参考にして欲しい。地域や各団体を巻き込んで欲しい。
- ・地域として、これからも西小学校を応援していきたい。

【チャイムについて】

- ・西小は、授業開始のチャイムを止めて 20 年以上経過している。西小の子供たちは、時計を見て行動しているが、チャイムの在り方を考えた方がいいと思う。
- ・チャイムの良さもある。ノーチャイムの良さもある。
- ・本地区は、宇都宮の中心地なので、地域の反応も踏まえ、子供達の良さを伸ばすため、どうするといいか、どこを進めるといいか、どう復活させるといいか等を検討することも今後の課題である。どこを優先させるかである。

【挨拶について】

- ・授業参観をする時、児童は参観者に挨拶をしている。児童はもっと授業に集中してもいいのではないだろうか。
- ・児童の授業中の挨拶については、授業の集中と周りの状況を見ること、集中状況を見ることも重要である。集中をつなげることである。
- ・挨拶は、子供達の中から、自然に育ってきている。子供達は集中して授業に取り組んでいる。子供の思いを受け止めながら、指導していきたい。子供たちが自発的に挨拶していることを大切にしていきたい。

【その他】

- ・全体として、市の平均を、成果として上回っている部分がある。
- ・地域住民の声は限られたものである。ブレもある。学校評価は課題を抽出している。数値的にどうのこうのではなく、こういう意見が出るのが嬉しい。ダメな所を出してくれてありがたい。
- ・地域住民の皆様が、忌憚なきこと、言いたいことを言える環境はとても有難い。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学習面においては、「宇都宮モデル」（「はっきり」「じっくり」「すっきり」）の各過程の指導の質的向上を図る。学習の見通しや振り返りの場面を設定し、児童が課題解決に向けて粘り強く取り組めるようにする。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進として、教材や一人一台端末を効果的に活用しながら、授業の展開・改善を図る。地域の教育力を生かした体験活動も重視し、発信力も付けていく。様々な行事や体験活動等で達成感や成功体験を味わい、自己肯定感、自己有用感を育めるようにする。
- ・生活面においては、自己肯定感、自己有用感の醸成と基本的生活習慣の定着を図り、思いやりや規範意識を育み、いじめを生まない指導・支援に努める。魅力にあふれ安心して過ごせる学校づくりにより不登校の予防に努めるとともに、組織的な対応による支援の充実を図る。児童会をはじめ児童主体の活動を支援し、児童が生き生きと活動することができるようになる。朝わくや縦割り班活動の時間も意図的・計画的に確保する。
- ・健康・体力面においては、教科体育の充実を図り、基礎的な体力と運動に親しむ態度を育成するとともに、外遊びの奨励、

「うつのみや元気っ子チャレンジ」の実施等，教育活動全体を通して，運動機会を創出する。

○学校園における小中の連携と，義務教育９年間を一体とした指導によって，学校生活に円滑に適応できるようにし，学力を保障する。中学生とは，あいさつ運動や運動会の他，清掃活動等でも交流を図っていく。

・教師が担う業務の明確化・適正化に努め，学校，家庭，地域の適切な役割分担のもと，向上心をもって，根拠を基に主体的に考え，時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を高めるとともに，学校づくりのチームの一員として，相互に連携・協力を推進する。